

キオビエダシャクについて

キオビエダシャクはイヌマキ（ヒトツバ）の葉を食害する害虫です。大量発生した時は、薬剤による駆除が必要な場合もあります。

○幼虫（約5cm）

幼虫はシャクトリ虫で、頭、尻、側面がオレンジ色で、他は灰色と黒色のまだら模様です。イヌマキの木に幼虫がいる場合、木を揺ると糸を吐いて垂れ下がってきます。**幼虫の時期のみイヌマキを食害します。**一度発生すると急激に増加し、被害木の大部分が枯死するなど大きな被害を与えます。**一般的には人体に害のある毒は、ないと言われています。**

○成虫（開長約6cm）

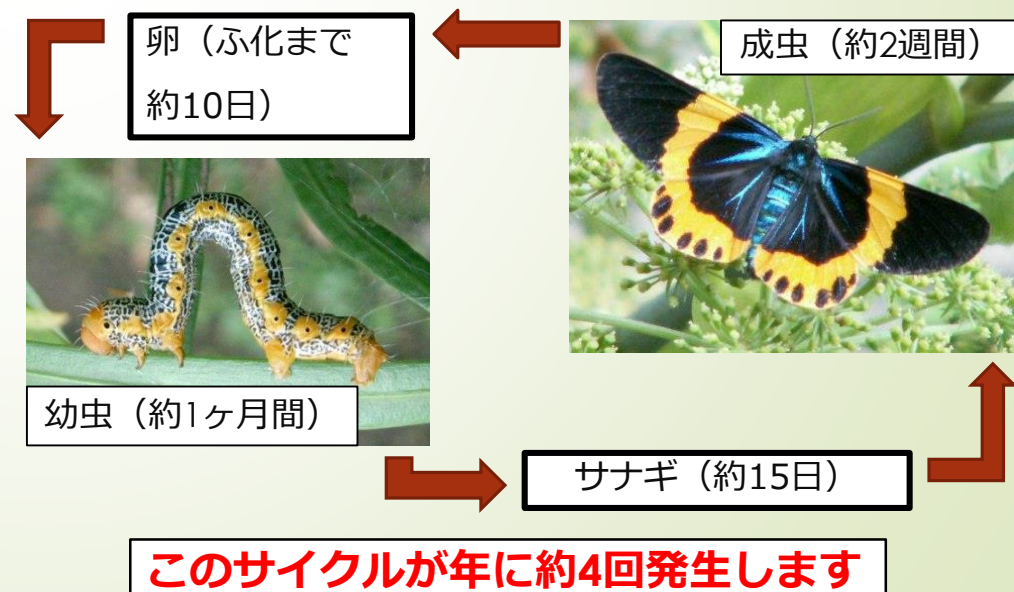
成虫は、濃い紺色で、羽にオレンジに近い黄色の帯がある蛾で、早朝と夕方に飛び回ります。メスの**成虫1匹で産卵数は数十個**です。幼虫と同じく人体に与える害のある毒は、ないと言われています。

○キオビエダシャクの一生

キオビエダシャクは4月から11月の間に約4回発生し、寿命は約2ヶ月です。

産卵後10日後にはふ化し、**1ヶ月ほどの幼虫期にイヌマキの葉を食害します。**その後地面に潜り、サナギになります。15日ほどで成虫になり、成虫は花の蜜などを吸い約2週間生存します。この間に産卵を行い、ふ化→幼虫→サナギ→成虫というサイクルを年に4回ほど繰り返します。

本種の実敵はほとんどいません。



キオビエダシヤクの駆除方法

○数が少ない場合

幼虫の数が少ない場合は捕殺します。

イヌマキの根元の土中には茶褐色のサナギがいることもあるので掘り起こして捕殺します。

成虫は虫網などで捕殺します。市販の殺虫剤も効果があります。

○数が多い場合

下記薬剤を木に散布し**幼虫を駆除**します。

※サナギや成虫には、効果がないと言われています。

○薬剤散布の注意点

- ・ 薬剤散布を行う前には、事前に近所の方に連絡をし、風の無い時に飛散防止対策をとり、作業を行ってください。

- ・ 葉の裏までむらなくかかるように散布してください。

(**葉の裏にも幼虫は潜んでいます。**)

- ・ 薬剤が身体に付着しないようにマスク、手袋、帽子、雨合羽などを着用してください。

- ・ 自分で薬剤散布が出来ない方は、造園業者やシルバー人材センター等にご相談ください。

薬剤名	ロックオン	スプラサイド (乳剤)	トレボン (乳剤)
希釈倍数	1,000倍	1,500～2,000倍	4,000倍
薬剤持続期間	約3ヶ月	約3日	約3日
散布適期	発生前(4・5月) 幼虫期	幼虫期	幼虫期

○薬剤は近くのホームセンター、農協、園芸品店等の農薬取扱店で購入してください。

※スプラサイドは劇薬のため、購入の際は、印鑑、身分証明が必要です。